

# 「建築の明治維新」を支えた銅。

明治維新は、日本人の生活や文化様式をも一変させた大変革だった。当然、建築の世界にもその波は押し寄せる。和から洋へ、そして和洋融合の新たなスタイルへ。それを確立していったのが「明治建築」である。そんな文化的にも価値ある多くの建造物を大切に継承・保管しながら一般に公開しているのが『明治村』だ。ここを訪れると、建築の明治維新を影で支えた素材、銅の様々な姿に出会うことができる。



展示物で当時の町並みを再現



聖ヨハネ教会堂  
(建設：明治40年／移築：昭和39年)



宇治山田郵便局  
(建設：明治42年／移築：昭和44年)

## まさに村！ 広大な敷地に 展開する野外博物館『明治村』

明治村は、まさに「村」と呼ぶにふさわしいスケールの野外博物館だ。その敷地面積は一〇〇万㎡！ 江戸時代に入鹿池（いるかいけ）に面した美しい丘陵地にある。昭和四十年三月の開村以来、数々の明治建築を移築・復元し、現在六〇以上の建造物が展示されている。建造物の室内には、様々な家具調度品、歴史資料が展示され、当時の住人の暮らしぶりを彷彿させる。また郵便局、役所、食堂、蒸気機関車などは、いまも村で本来の役割を果たし、当時の雰囲気でも場者を楽しませてくれる。「明治時代の村にタイムスリップ！」そんなエンターテインメントな一面も持つ博物館だ。

## 当時の建築技法を検証し、 移築・復元・改修を行う



広報担当 ユニットディレクター 目黒 新祐氏  
建築担当 ユニットディレクター 石川 新太郎氏

我々を案内してくれたのは、広報担当の目黒氏と建築担当の石川氏のお二人。様々な建造物を見学しながら、そこに必ずといって良いほど銅が使用されていることに驚く！

「明治建築には、当時の最新の建築技法や材料が積極的に

## 博物館

# 明治村®

ホームページ [meijimura.com](http://meijimura.com)



**明治村へのアクセス** JR名古屋駅から名古屋駅の急行に乗り換え、30分ほどで犬山駅へ。そこからバスで約20分。帰りのバスは、入口に時刻表を置いてあるので忘れずにチェックを。開村時間は9:30から17:00。夏休みのイベント期間中は夜9時までの場合も。各種イベントについては、ホームページをチェックください。

## 開村45周年の明治村を、もっと楽しんでいただくために…



マネージャー 鈴木 智久氏

「開村45周年を迎えた明治村では“ここでしか味わえない明治時代の特別な体験”をいろいろと企画しています。そのひとつが、普段は公開していない特別な場所を、時間限定で見学できる建物ガイドです。例えば、芝居小屋の「呉服座（くれはざ）」は、学芸員らの案内で地下の奈落に降りて回り舞台の様子を見学できます。各展示ごとに公開時間が異なりますので、ホームページで下調べをしてご来村いただければ、見応え、楽しみもぐっと違ってきます。他にも目的別に選べるガイドツアーや季節ごとの新しいイベントも次々と企画しています。また、グルメもぜひお楽しみいただきたい一つです。当時流行ったコロッケ、当時のカレーを使用したカレーぱん、文明開化の象徴「牛鍋」、洋食などを再現しています。さらに「東山梨郡役所」で、明治村の住民登録をすると、1年間自由にご入村いただけます。建築学や民俗学に関心の高い方はもちろん、ご家族でも楽しんでいただける博物館、それが明治村です。」



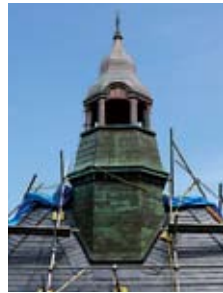
北里研究所本館・医学館

改修前の姿  
北里大学創立50周年、北里研究所創立100周年を記念して改修



破傷風菌と平和のシンボル月桂樹を現した車寄上部の紋章

『北里研究所本館・医学館』は、現在、内外装の保存修理工事を行っている。この建物のシンボルである八角尖塔に使われている銅板も改修の最中だった。



改修する塔屋最上部の緑青の再現が課題



銅板を再利用し改修を進める

「長年の経年変化で生まれた緑青の風合いを出すため、使える銅板はそのまま活用しています。塔屋最上部の銅板は大正4年のもので劣化していましたが、昭和55年の移築時の銅板はまだまだ利用できます」。

使用している銅板は0.4mm。改修工事を行う職人に訊ねてみると、「当時の銅板も遜色なく使用できる、折目が付いていても銅はやわらかいので問題ない」との感想だった。塔屋の他にも屋根の下り棟、窓の水切り、軒の飾り、車寄せなど、随所に銅が使用されている。



東松家住宅  
(建設・明治34年／移築・昭和40年)



赤坂離宮正門哨舎  
(建設・明治41年／移築・昭和58年)



札幌電話交換局  
(建設・明治31年／移築・昭和40年)



京都七條巡査派出所  
(建設・明治45年／移築・昭和44年)



西園寺公望別邸「坐漁荘」  
(建設・大正9年／移築・昭和46年)

シンの底全面が銅板

えられている。当時の輝きそのままの姿で伝えられている。

「ここでは、こういった材料、工法を用いて建造されたかを、科学的・建築学的に検証し、当時の建築により近い形で復元・改修を行っている。銅は、ユニークな活用や工法を用いられていることもあり、謎も多く研究しがいがあるという。彼らのたゆまぬ研究心により、明治建築とそこに活用された銅は、

取り入れられています。その代表的な材料が銅です。銅は加工しやすく意匠性に優れ、経年変化でさらに味わいを増していきます。それが多くの建築家に愛された理由のひとつでしょうね」と石川氏が解説してくれた。

日比谷通りの歩道から見た当時の帝国ホテルの優美な姿が見事に再現されている。中に一歩足を踏み入ると、その細部にまでこだわったデザインに思わず感嘆の声が…。

「設計者のフランク・ロイド・ライトは、細かな造形の繰り返しパターンを壁、軒先き、屋根などあらゆる部分に用いました。これは日本古来からの造形美と西洋建築を融合させたこだわりの表現です」と石川氏が教えてくれた。

特に目を引くのは、銅で細工された軒飾り。複雑な加工が施されたユニットを積み重ね、室内に映り込む木漏れ日の形までを計算して表現している。

「これだけの加工を行い、かつ耐久

性も同時に実現するには、銅が最適だったでしょうね」と目黒氏。

さらに日頃は公開していない屋根の見えるテラスにも案内いただいた。ここにも複雑な繰り返しパターンを施した銅飾りが屋根に用いられているが、見る角度により屋根の外観が変化していくという驚きの仕掛けとなっていた。



帝国ホテル中央玄関

一般に公開するまで移築から7年以上も費やしたという



細かな細工を施した銅板を製作



重ね合わせて軒飾りに



段差を付けた銅飾りを屋根に



角度を変えると外観が変化していく